

令和4年度 第3回・第4回
「知る、分かる、考える、統合型リゾート（IR）セミナー」
質疑応答要旨

（質問者1）

夢洲では、現在でもコンテナの滞留問題が発生しているが、今後工事が進んでいく中で、どう取り組んでいくのか、また完成した場合、どのように動線を分けるのか、具体的に教えてほしい。

（回答者：職員）

夢洲においては、国際観光拠点と国際物流拠点が共存し、それぞれが十分な機能を発揮するためには、円滑な交通アクセスを確保することが必要不可欠。夢舞大橋などの幹線道路の拡幅や高架道路の整備などにより、観光関連の動線と物流関連の動線との分離を図り、円滑な交通アクセスの維持に努めている。

（質問者2）

地盤改良は、本当に788億円で済むのか、また、附帯事業は事業者がやるのか、府民・市民が負担するのか、そういった点を教えてほしい。

（回答者：職員）

附帯事業については、IR事業者の費用負担により実施するものである。

土壌汚染対策、液状化対策、地中障害物撤去に要する土地課題対策費用について、大阪市が負担する金額は、債務負担行為の限度額（788億円）の範囲内としている。

IR施設建設に必要な地盤沈下対策は事業者において適切に実施するものである。

また、市が使用した埋立柱材の原因により、通常の想定を著しく上回る大規模な地盤沈下や陥没が生じた場合を除いて、本市が費用を負担しないことを前提としている。

（質問者3）

以前、テレビで和歌山の観光連盟の方が、将来的に、若い層をどんどん教育し、英語とか外国から来られる人とのコミュニケーション能力を持ってやったらどんどん良くなりますよというふうに言っていたが、大阪の観光協会やIR関係では、若い層の教育等はどうなっているのか。

（回答者：講師）

人材育成ということでは、観光局として、留学生支援事業に取り組んでいる。大阪に来られている留学生の方に大阪の魅力を知ってもらい、将来的に観光産業にも従事していただきたいということから、観光局がプラットフォームを作り、研修等、様々な取り組みをしている。英語のできる方は多いし、今は日本語を勉強されている。そういった人材にも、将来的には、IR等の施設にも従事していただけるよう、海外からの人材活用にも積極的に取り組もうとしている。

一方、日本の学生については、大学がしっかりと国際交流の事業等に取り組まれており、留学生と日本、大阪の大学で観光を学んでいる方との交流は、以前から進めており、うまく人材育成に繋がっていただければいいと思っている。

IR等の施設には相当な人材が必要になると思われるので、そういう人材が雇用されることで、大阪に観光人材が根付いていけばいいと思っている。